

県民のいのち、暮らし 最優先に 日本共産党山形県議団が知事へ2023年予算要望



2023年2月
IV-43

◇発行◇
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子
＜連絡先＞
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

日本共産党山形県委員会



「らえて政府に対する提
案をしっかりと行って
まいりたい」と答えま
した。



日本共産党山形県委員会の本間和也県委員長、党県議団渡辺ゆり子、関徹の両県議、石川渉県議候補は、1月20日、吉村美栄子知事に対して、新型コロナウイルス対策に関連した緊急要望（17項目）と2023年度県政運営に関する提案・要望（47項目）を手渡し5項目について懇談しました。

大軍拡・負担増反対

まず大軍拡・負担増反対として、敵基地攻撃能力保有と先制攻撃戦略、大軍拡・負担増に反対を表明し、政府に撤回を求めることについて、吉村知事は「県として全国知事会を通じて、国際社会と協調し、外交を含むあらゆる対策を講じて、我が国の安全安心に影響を与える事態の回避を図るよう政府に対して求めているところ」「反撃能力の保有などを含む安保関連3文書の改定は戦後の安全保障政策の大きな転換点になりうるので、防衛費増額に伴う国民負担のあり方と合わせ、政府や国会の責任で

エネルギー対策

エネルギー対策の項目として、岸田政権の原発回帰方針に反対し、原子力に頼らない「卒原発」の姿勢を堅持し、引き続き国に訴えることに対して、吉村知事は、「原子力施策については使用済み核燃料の処分方法が未確立、日本が世界有数の地震国、テロの脅威への対応などの課題があり、燃料のウランも輸入に頼る現状」と述べ、ひとたび事故が起きれば、大きな被害を及ぼすことを決して忘れてはならない。再エネを中心とするエネ

しっかりと議論を尽くし、国民にも丁寧に説明していただきたい」と答えました。

ルギー転換を進めながら、ゆくゆくは原子力に頼らない卒原発を目指す必要があるとの考えを示し、「今後とも、こうした視点から機会をと

物価高騰、子育て支援

物価高騰、子育て支援の項目では、市町村と連携し



て、物価高騰で負担感が増している学校給食費の無償化を図り、子どもの医療費無料化を拡充することを求めました。吉村知事は、学校給食費の高騰などに伴う保護者負担を軽減するため交付金の延長、拡充や新たな補助制度の創設を政府要望していくとの考え、また子ども医療費無料化について、これまで県制度を順次拡充してきたが政府の制度となるよう全国知事会、地方6団体と連携して働きかけていく考えを示しました。石川県議候補が、学校給食費は月4～5千円かかるが子育ての大きな負担になっていること、県内でも給食費補助を始める自治体が増え、県レベルでの補助実施の動きがあることを述べ「山形でも知事先頭に子育て支援策をどんどん発信してほしい」と発言しました。吉村知事は教育の無償化、やりたいけれど財源が課題との考えを述べました。他に「コロナ対策の強化」「土砂災害対策」についても懇談しました

コロナ禍救急搬送困難なくせ

1月19日、閉会中の厚生環境常任委員会が開催され、引き続きコロナ対策強化を求めました。コロナ禍における救急搬送困難事案（医療機関への受入照会回数4回以上かつ現場滞在時間30分以上）について県内で4月83件から、11月148件、12月168件と増えていることに対して県当局の認識と対応について質しました。当局は、「感染拡大防止に向け県医師会など関係機関と連携を図り、年末年始体制も含めて取り組んできた」「医療従事者の感染や院内クラスターにより診療制限が行われている場合もあり、関係者で情報共有に取り組んでいる」「比較的軽症と思われる受診者も多く救急電話相談など適正受診を進める取り組み、啓発を行っているところ」などと答えました。

私は、「経済活動との両立でコロナ対策が緩和されつつあるが、医療・介護現場は変わらず厳しい状況が続いている。県民への基本的対策への

の注意喚起と医療提供体制の充実が改めて必要と考える。救急搬送が困難になるようなことがないようにしてほしい」と発言しました。



党と後援会の決起集会開催



1月7日、日本共産党と後援会の決起集会

お知らせ

県議会2月定例会は2月20日開会予定で、新年度予算案が審議されます。

先立って14日には予算内示会が行われます。

ゆり子の視点

1月10日、中山町議補欠選挙で日本共産党の木村幸広さんが無競走当選を果たし、党議席を回復しました。住民から寄せられた切実な水害対策などの声を町や県、国河川事務所にも届けすでに議員並みの活動を展開しました。

住民要望が力に

住民の声が候補者自身の力の源泉になりました。山形市も党市議団の市民アンケートに声や要望が660通以上寄せられています。

内容は、身近な除雪のことから物価高に対する何とかしてほしいとの切実な思い、重い子育ての経済的負担や年金収入が減っていくのに医療や介護の

支出が増えていく不安など、そして市政から県・国政にまで日本共産党への期待や議員への激励含めての注文も寄せられています。まさにこれらは議員や候補者にとっては「よし、がんばるぞ」の力になります。中山町議補選でスタートを切った今年の地方選、県議選、山形市議選もみなさんの力で



1月7日、山形市で県議選、市議選勝利をめざす決起集会が開かれました。高橋ちづ子衆院議員がビデオメッセージを寄せ、石川渉県議候補、佐藤あき子市議、あそ隆市議、石山ひろゆき市議候補が決意表明を行い、団結カンパニーで必勝を誓いあいました。

県議選政策発表

1月20日、日本共産党

山形県委員会は、県議選に当たっての個別政策と県民のみなさんへのアピールを発表しました。アピールでは県議選について●物価高騰とコロナ禍から県民のいのちと暮らし、営業を守る県政の発展を目指す●山形県から岸田政権の大軍拡と改憲の

動きにノーの審判を●県民の声がまっすぐ届く透明・公正な県議会へ、の3つの重要な意義があると訴えています。内容はホームページや今後のチラシなどに掲載していきます。

日本共産党発行

しんぶん 赤旗

月刊 3497円
日曜版 930円

